

マッチングサイト「ひばサポ」始動！

～地域課題が庄原ファンと市民をつなぐ懸け橋に～

政策企画課関係人口創出係 ☎0824-73-1209



本市では、令和5年3月に「庄原ファンクラブ」を設立し、庄原を応援してくれるファンとの交流や、ファンと市民によるにぎわいづくり、関係人口の創出に取り組んできました。

このたび、これまでに培った庄原ファンクラブのつながりを生かし、地域の「困りごと」と、庄原を応援したい人をつなぐマッチングサイト「ひばサポ」を8月末からスタートしました。



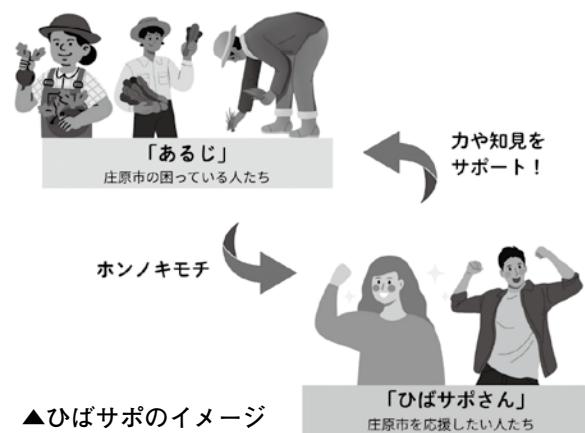
▲ひばサポHP

「ひばサポ」って、どんな仕組み？

ひばサポは、地域課題の解決に特化したマッチングサイトです。
担い手不足やノウハウ不足などの「困りごと」を抱える市民団体などの『あるじ』と、庄原市に関心を寄せる市内外の人をつなぎ、サポーターとして地域の活動に参加してもらいます。
単なる人手不足の解消を目的としたボランティア募集ではなく、地域の「困りごと」をきっかけに、新たな人とのつながりや交流を生み出すことを目指しています。

◇期待される効果

- 人手不足の解消
- 新たな交流とにぎわいの創出
- 地域の将来的な担い手の育成



▲ひばサポのイメージ

ひばサポの活動が始まっています！

6月以降、自治振興区などを対象に説明会を開催し、ひばサポの活用を呼び掛けてきました。

参加者からは、どのようなイベントや地域活動で活用できるのか、受け入れ側にはどのような準備が必要なのかなどの意見や疑問が寄せられました。

その後、少しずつ活動プログラムが集まり、8月末から本格的に活動を開始。これまでに市内各所で5回の活動が行われています。

◇今後の活動予定

とき 10月11日(日)

あるじ／内容

庄原市政策企画課／イベント出展サポート

とき 10月20日(火)

あるじ／内容

花咲ジバーの会／桜自生地整備

とき 11月1日(日)

あるじ／内容

帝釈自治振興区／帝釈もみじ祭スタッフ

とき 11月14日(土)

あるじ／内容

山内自治振興区／地域活動(未定)
花咲ジバーの会／桜自生地整備

※活動内容や日程は変更となる場合があります。詳しくは、ひばサポホームページをご覧ください。

『あるじ』を募集しています！

ひばサポでは、地域の「困りごと」を抱え、サポーターを受け入れていただける『あるじ』を募集しています。

利用を希望する団体は、次の書類を提出してください。※詳しくは、政策企画課へお問い合わせください。

- 利用登録申込書兼誓約書
- プログラム申込書
- 庄原ファンクラブ協賛店・団体登録 申込書

また、『あるじ』には、活動当日に参加するひばサポさんへ「ホノノキモチ」として、無理のない範囲でお渡しするものの準備をお願いしています。

〈ホノノキモチの例〉

昼食、収穫物のおすそ分け、特産品など

◇庄原ファンクラブ会員も募集中！

ひばサポの活動を支える庄原ファンクラブでは、引き続き会員を募集しています。市内に住んでいる人も大歓迎です！

会員になると、

- オリジナル会員証の発行
 - イベント情報の配信
 - ファンクラブイベントへの参加
- など、庄原をもっと楽しめる特典があります。まだ会員登録をしていない人は、ぜひ隣の申込フォームから登録してください！



あるじ・ひばサポさんの声

「ひばサポ」を通じて、地域ではどんな活動が行われ、どんな出会いやつながりが生まれているのでしょうか。ここでは、実際に行われた2つの活動と、活動に取り組んだ『あるじ』、参加した『ひばサポさん』それぞれの声を紹介します。

活動事例① 東城自治振興区

活動内容：神楽イベントの写真撮影

ひばサポ参加者：2人

ホノノキモチ：お昼ごはん・記念品

あるじの声

規模の大きなイベントのため撮影班の人手が足りず、悩んでいました。

今回、カメラが好きな人に情報が届き、手伝ってもらうことができて大変助かりました。また、若い人や市外の人に来てくれることで、地域も元気をもらいました。

ひばサポさんの声

写真撮影が趣味なので参加しました。神楽という地域の伝統文化にも触れることができ、楽しみながらお手伝いすることができました。



活動事例② 北自治振興区

活動内容：稲刈り・わらづくり

ひばサポ参加者：6人

ホノノキモチ：お昼ごはん

あるじの声

須川地域の文化継承と少子高齢化による人手不足解消のため、ひばサポを利用しました。目標はわら100束でしたが、参加者の皆さんのおかげで目標を大きく上回る180束近くを収穫することができました。

また、集会所も久しぶりににぎやかになり、本当にうれしかったです。ぜひまた参加してほしいです。

ひばサポさんの声

庄原に移住してから米作りを始めました。分からないことばかりでしたが、お米作りの名人たちに色々な話を聞いて良かったです。

■ 普段はできない体験ができました。庄原まで片道2時間ですが、来たかがありました。

～活動中の様子～

